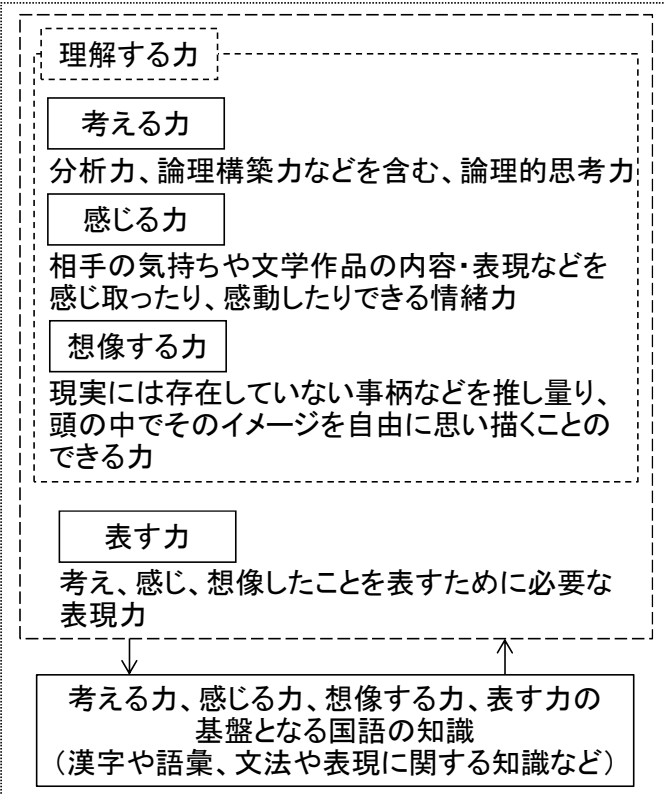


言語能力に関するこれまでの議論について

これからの時代に求められる国語力について
 (平成16年2月13日文化審議会答申)

- (1)個人にとっての国語
- ①知的活動の基盤を成す
 - ・「知識の獲得」と「能力の形成」にかかわる
 - ・論理的思考力の基盤である。
 - ②感性・情緒の基盤を成す
 - ・美的感性や豊かな情緒を培う
 - ③コミュニケーション能力の基盤を成す
 - ・「人間関係形成能力」、「効果的に発表・提示する能力」の根幹

(2)国語力を構成する能力等



生涯を通じて形成されていく教養・価値観・感性等
 <人間として、日本人としての根幹にかかわる部分>

言語力の育成方策について(報告書案)
 (平成19年8月16日言語力育成協力者会議配付資料)

- (1)言語の果たす役割
- ①知的活動(特に思考や論理)の基盤
 - ②感性・情緒の基盤
 - ③他者とのコミュニケーション(対話や議論)の基盤
- (2)指導の充実
- ◆言語力の育成については、国語科を中核としつつ、すべての教科等での言語の運用を通じて、論理的思考力をはじめとした種々の能力を育成するための道筋を明確にしていくことが必要。
- ①知的活動に関すること
 - ・事実を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝える技能を伸ばすこと
 - ・自らの考えを深めることで、解釈や説明、評価や論述をする力を伸ばすこと
 - ・考えを伝え合うことで、自らの考えや集団の考えを発展させる力を伸ばすこと
 - ②感性・情緒等に関すること
 - ・感性や情緒は、他者との人間関係の中で育まれていくものであり、美しい言葉や心のこもった言葉の交流は、人間関係を豊かなものに高めていくものであること
 - ③他者とのコミュニケーションに関すること
 - ・個々人が他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解するなど、お互いの考えを深めていくことが人々の共同生活を豊かなものにすること
- ◆発達の段階が上がるにつれて、具体と抽象、感覚と論理、事実と意見、基礎と応用、習得と活用と探究などについて認識や実践ができる水準が変化。それに応じて、指導内容や言語活動の特色付けをしていく必要がある。

幼稚園、小学校、中学校高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について
 (平成20年1月17日中央教育審議会答申)

- (1)言語の役割
- ①知的活動(論理や思考)の基盤
 - ②コミュニケーションや感性・情緒の基盤
- (2)思考力・判断力・表現力等の育成に必要な学習活動
- ◆以下のような学習活動を各教科において行うことが、思考力・判断力・表現力等の育成にとって不可欠。
- ①体験から感じ取ったことを表現する
 - ②事実を正確に理解し伝達する
 - ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
 - ④情報を分析・評価し、論述する
 - ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
 - ⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる
- ◆思考力・判断力・表現力等の基盤となる言語の能力の育成に当たって、発達の段階に応じた指導が重要。(具体と抽象、感覚と論理、事実と意見、基礎と応用、習得と活用と探究など)



言語活動の充実